

平成 30 年 4 月 11 日

報道機関 各位

第7回「人文知」コレギウム
「文学研究の最前線—内なる眼・外なる眼」

富山大学人文学部は、平成 29 年度より学部教員による研究会「人文知」コレギウムを定期的で開催しております。富山県の「人文知」の拠点として、人文研究のさらなる高みを目指して、様々な分野の教員が集い、相互に研究交流を図ります（※「コレギウム」は「仲間たちの集い」という意味）。

来る 4 月 18 日（水）はその第 7 回目となります。テーマは、「文学研究の最前線—内なる眼・外なる眼」、発表は、「芥川龍之介、自殺前の苦悩とは」（小谷瑛輔准教授）、「『古事記』と「八雲」」（中島淑恵教授）です（詳細については、別添チラシをご参照ください）。

なお、本研究会は、一般の方や学生の聴講も可能です（事前申込不要・無料、ただし、ウェブでの申し込みも可

<http://www.diversitylounge.jp/collegium/postmail.html>）。

当日の取材・報道方、よろしくお取り計らい願います。

【本件に関する問い合わせ先】
富山大学 人文学部総務課
TEL. 076-445-6131

富山大学人文学部
富山循環型「人文知」研究プロジェクト公開研究交流会

第7回 「人文知」コレギウム

『古事記』と「八雲」

中島淑恵

(フランス言語文化・教授)

文学研究の
最前線

外なる眼
内なる眼

小谷瑛輔

(日本文学・准教授)

芥川龍之介、自殺前の苦悩とは

本学ヘルン文庫には、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)が来日してすぐに購入したと思われるチェンバレン訳『古事記』が収蔵されています。今回は、ハーンが『古事記』にどのような関心を抱いていたか、最新の調査結果も交えてご報告させていただきます。



「唯ぼんやりとした自殺の苦悩とは何だか?」と試み、纂者によりなりました。そのことを発見した芥川研究者が解説します。

2018年4月18日(水) 13:30-15:30

一般・学生聴講可
(無料)

富山大学人文学部2階第4講義室

平成29年度コレギウムの成果が本になりました!
富山大学人文学部編
『人文知のカレイドスコープ(富山大学人文学部叢書1)』
(2018.3 刊行, 桂書房, 1,500円)

お問い合わせ:
富山大学人文学部総務課
TEL 076-445-6131
FAX 076-445-6141
<http://www.hmt.u-toyama.ac.jp/>
<https://www.facebook.com/hmttoyama/>